

【「知っている人」と「知らない人」】

1. 「知っている人」と「知らない人」を認識する

「内容が明確に伝わる技術文書の書き方の3原則」での第1原則とは「書き手と読み手の違いを認識する」です。すなわち、書き方の第1原則とは、書き手とは「知っている人」、読み手とは「知らない人」を認識することです。

【内容が明確に伝わる技術文書の書き方の3原則】

- ◆第1原則：書き手と読み手の違いを認識する
- ◆第2原則：内容が明確に伝わる構成を考える
- ◆第3原則：内容が明確に伝わる書き方を考える

技術文書を書く目的は、書き手から読み手に内容を伝達することです。つまり、「知っている人（書き手）」から「知らない人（読み手）」に内容を伝達するために技術文書を書きます。

2. メールを書くことで考える

書き手は、読み手に伝える内容を知っています。読み手は、書き手が書く内容を知りません。読み手は、書き手の書いた技術文書を読んで初めてその内容を知ります。

例えば、日常業務の中でメールを書くことを考えます。書き手は、メールの受信者（読み手）に内容を伝達するためにメールを書きます。書き手は、読み手に伝える内容を知っています。これに対して読み手は、書き手からどのような内容のメールが送られてくるのか知りません。メールを読んで初めて内容がわかります。

3. 第1原則が認識できれば技術文書の書き方が変わる

書き方の第1原則（書き手と読み手の違いを認識する）を認識すること、つまり、「書き手とは知っている人」、「読み手とは知らない人」を認識することで技術文書の書き方が変わります。

「自分が読み手だったら（自分が知らない人だったら）、どのように書けば内容が明確に伝わるか？」と考える技術文書を書くからです^注。第1原則が認識できれば読み手の立場で技術文書を書くようになります。

注）：「書き方の第2原則（内容が明確に伝わる構成を考える）」と「書き方の第3原則（内容が明確に伝わる書き方を考える）」を使って書くことで、内容が明確に伝わる技術文書を書くことができます。